



### 『Matt』

岩城けい／著 集英社

オーストラリアに移住して5年。言語の壁を乗り越え演劇に親しみ、Mattとして学校になじんだ16歳の真人。その彼の前に現れた転校生マツト、Wは、真人を「ジャップ」と呼び、ことあるごとに憎しみをぶつけてきます。その背景にはどうにもできない負の歴史が…。二人のMattは、理解しあうことができるのか？友人の死、進路、父との確執など、真人の苦悩は大きくなるばかりです。シリーズ2冊目。



### 『アリになった数学者』

森田真生／文 脇阪克二／絵 福音館書店

人間の数学者だった“ぼく”は、気づくと「アリになってしまった」。人間とは違う、アリの数学に興味をもった“ぼく”は、アリたちと数について語り合おうとするのですが…。

数学の本だと敬遠しないでください。数を理解することが、他者の心を理解することと同じだと気づかされます。読後、これまで見えなかった驚きの世界がひらけているはずですよ。



### 『僕は上手にしゃべれない』

椎野直弥／著 ポプラ社

幼い頃から吃音に悩んできた悠太。言葉が伝わらないことも、笑われることも苦しくて、将来が不安で…。しゃべることからいつも逃げていた悠太が、中学校の入学式で手にした、放送部勧誘のチラシ。悩みながらも踏み出した一歩が、味方になってくれる人との出会いが、少しずつ悠太を変えていく。伝えたいという気持ちが、あきらめないで生きる勇気になる物語です。

## 図書館おすすめブックリスト

2019年4月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで フル充電!!

No. 8 人生クリエイト! 青春編 (中高学生~)



### 『人生を変えるアニメ』

河出書房新社／編 池澤春菜 [ほか]／著 河出書房新社

アニメ監督や声優、学者や小説家たち27人が本気で薦めるアニメガイド! どこか自分とシンクロしたキャラクター、単純ではないと知った世界の構図、孤独や絶望に寄り添ってくれた物語…そんな「アニメから教わったこと」を、それぞれが熱く語っています。あなたがこれから出会うアニメが、あなたの未来を照らしてくれるかもしれませんよ。



### 『天才はあきらめた』

山里亮太／著 朝日新聞出版

芸人として活躍する「南海キャンディーズ山ちゃん」の自伝です。モテるために芸人を目指したものの、上手くいかない理由を他人のせいにして人を見下し、少し成果が出るとすぐに調子によって威張り散らす！！当然、相方とは険悪になるばかり。

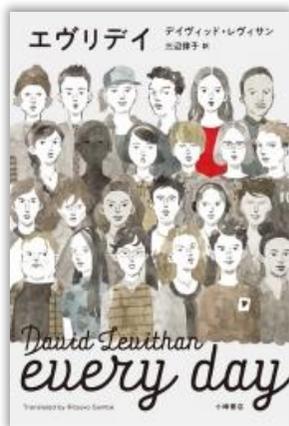
そんな山ちゃんが、どのようにして今の山ちゃんになったのか？必死でもがいた日々を、ダメなところを隠すことなく綴っています。

### 『エブリデイ』

デイヴィッド・レヴィサン／作 三辺律子／訳  
小峰書店

毎日違う体で目覚める主人公「A」。体の宿主は、性別問わず全員自分と同じ16歳。そんなAが恋に落ちてしまい、自分はここにいるという真っ直ぐな思いを届けようとするが、体を借りている人の人生を壊すわけにもいかず…。

明日同じ自分でいられないいらだたしさや、好きな人と一緒にいられない不安、それは青春に誰もが経験する気持ちです。改めて自分を見つめなおすことができる優しい物語。



### 『14歳、明日の時間割』

鈴木るりか／著 小学館

著者は中学生でプロの小説家としてデビューした話題の少女。この本は、いろんな中学生の視線で学校生活を描いた連作短編集です。各章が「国語」「家庭科」と時間割に見立てられ、各教科にまつわる物語が展開。「体育」では、走るのが苦手な茜が、病気の祖父の回復を願ってマラソン大会に出場し…。14歳らしい瑞々しい感性が溢れ、どんな世代でも共感できる小説です。挿画は矢部太郎が担当しています。



### 『10代のための座右の銘』

今を変える 未来を変える』  
大泉書店編集部／編 大泉書店

「座右の銘」とは、「いつも自分のそばにあって自分を戒め励ましてくれる言葉」のこと。現代からは羽生善治や高橋尚子、歴史上からは坂本龍馬、リンカーンなど、時代に名を残した人たちの言葉が紹介されています。

あなたがなりたいのは、どんな人？包容力のある人？苦難に勝てる人？それとも…。この本にヒントがあるかもしれません。

### 『まあちんぐ！吹部！#2』

赤澤竜也／著 KADOKAWA

座奏しかしたことのない浅川高校吹奏楽部がマーチングコンテストに参加することになってしまった！発案者は副顧問の“カモティ”で、顧問の“ミタセン”はマーチングに猛反対！対立する二人の間で奔走する部長・鎬木沙耶だったが、部内にも派閥ができて…！？

個性的すぎるキャラクターたちが奏でる、ドキドキが止まらない青春部活小説です。前作『吹部！』を読むとより楽しめます。



### 『わたしの町は戦場になった』

シリア内戦下を生き延びた少女の四年間』  
ミリアム・ラウィック、フィリップ・ロブジョワ／著  
大林薫／訳 東京創元社

内戦下のシリア・アレッポで暮らす13歳の少女ミリアムの日記には、日本では考えられない銃声や爆弾、スナイパーの存在への恐怖や、次々に親しい人が亡くなってしまふ悲しみが綴られています。そんな中でも学校に通う姿に胸が熱くなります。

国際情勢を知る手掛かりになる実話です。